夢窓幼稚園通信第41号

2015年 9月 30

中秋の名月、そして今年一番の大きさの満月には、うっとりしてしまいました。
ロケットで出かけていき様子を確かめられるようになった今でも、月の輝きは、人の心に懐しい気分を引き起こしたり、忘れていた夢を思い出させてくれる…神秘の奥深いいのちの光です。
そして月は石と砂の星で生きものは見当らないとしても、これから先も小さな子どもたちは、「おつきさまでうさぎがおもちをついている」と見上げることでしょうし、実際にこんな歳の僕でもお月さまにはうさぎが住んでいるとほわりと想うこともよくあるものです。

「うさぎ」と言えばこんなわらべうたがあります。

♪ うさぎ うさぎ なぜ みみ なげえ？
山のはなしも ききていし 里のはなしも ききていし
それで みみ なげえ!!

山の話も里の話も世界中の話しを聞きたいから、耳が長くなったなんて素敵なんでしょう。
うさぎはぴょんぴょん野山にとんでいって、耳を立ててすましている！…いろいろな不思議を知りたいのですね。
とくに秋は、母なる生命…大自然は、空も大地も輝くたからものでいっぱいですものね。
それらをひとつひとつ受けとめたり、吸いこんだりしているのですね。
そうしてうさぎは母なる生命とひとつになることで、共に大自然をつむぎだし、また自分自身がゆたかになって与えられた生命を世界に向けて役立てていくことでしょう。

存在の深みへ降りていく。
予感と憧れに誘われ
自己を省察しながら
私は自分を見出す。

私は夏の日の贈りものだ。
私は秋の日に
萌える芽となり、
魂の熱い力となって働く。
（R.シュタイナー『魂のこよみ』より 秋）

10月半ばには、あきまつりが予定されています。
61年目の今年は、新しい1年目でもあるので、
めぐりめぐる生命の甦りの年なのだと思っています。
「なつまつり」に続けて、「めぐり めぐりし ものがたり」
秋仕立て〜めぐめぐの森の大冒険〜が始まりました。
おまつり当日の練習に明け暮ることなく、今年の秋の
一日いちにちをたっぷり味わいながら、耳の長いうさぎ
のように過していきたいと思います。

なつまつりのときとストーリーやスタンスは違いますが
「いのち」や「たね」への思いなどのドラマは共通の
ものが通奏低音として流れていくはずです。
7月の不定期新聞「ぷれぐなんと」をもう一度読み返して
いただけるとありがたいです。
「はじまりのたねにこめられたものを、もう一度思い返そう！」と
いう言葉や、「一人ひとりがひと粒のたねとして未来をゆめ
みて銀河の彼方までとび出そう！」なんて言葉に出会える
はずです。

・・・・

「どんぐりやまへ　しゅうごう！　だいしゅうごう！」と
お昼ごはんを食べ終った だれかが仲間に呼びかけて
いる声が青い空の下に響いています。
どんな冒険が待っているのでしょうか。何かわくわく
するものを見つけたのでしょうか。
心をころがし身体を動かし、ゆたかな秋をそれぞれ
一人ひとりが仲間と共に生きられますように！

園長 升光 泰雄